



田上早百合 プロフィール

約六十六年前、富山県入善(にゅうぜん)町に生まれました。

入善町は、急流 黒部川が作る広大な扇状地にあり、美しい

立山連峰を仰ぎ見て育ちました。両親も弟も絵を描くのですが、私は絵が下手で、書が一番長く続いています。この度の展示は、「故郷」がテーマです。

現在、奈良学園中・高等学校の書道、奈良女子大学書道部の指導をしています。職業というより、生き甲斐、元気の元です。書道普及の社会活動、東大寺大仏殿西回廊を会場として行なわれる「大仏書道大会」の運営にも協力しています。

陶芸は、大学時代に出会い、子供達が大きくなってから再開、自宅工房の電気窯で「磁印」や水滴などの文房具を制作し、アート系NPO法人の活動を通して、書以外のジャンルの仲間との交流を楽しみ、「穴窯焼成」もしています。また「金継ぎ」から漆に興味が移り、この度「拭き漆」に挑戦しました。

工芸的な作品を好んで、いろいろ作りますが、池田満寿夫氏が「書が一番面白い」と言ったように、私の表現活動の軸は、「筆と墨」だと思っています。

